

知・技の創造

ものづくり大学究

▷70◁

■教学マネジメントの推進で、「教学マネジメント」を2018年11月26日、中央確立することが求められた教育審議会は「2040年」である。

向けた高等教育のグランドデザイン」を示し、今後到来する予測困難な時代にあつて「方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施者本位の教育の実現」が最も重要な教育の実現「方針」(カリキュラム・ポリシー)、「入学者受入れの重要である」とした。これは、従来まで施行されていた「方針」(アドミッション・ポリシー)の三つの方針の見直しを含む点検が必要であり、転換し、これを推進する大学の組織がその教育目的を達成するための管理運営体制として

発点となる。さらにこれは「これに付いた学位プログラムレベルや授業科目レベルでの明確な到達目標を体系的・組織的に再編成し、学修成果・教育成果の把握と可視化の説明を、学修者自身がエビデンスとともに示せることが求めら

横山 晋一 建設学科教授

組織的大学の改革の推進

れている。つまり、学修者アセスメント向上のための対策を採ることは、現代社会が大学教育に求める質保証の根幹ともなり得、積極的な学修成果の公開と説明責任を果たすことによつて社会と共存し、必要とされる大学に位置付け

メンツの下に「教学マネジメント室」を組織し、全教職員(理解と協力)の上で、「明快な教育到達目標の提示」「精選した授業科目への絞り込み」「学修成果が実感できる仕組み」を骨子とした改革を、前記三つの方針の見直し点検

が2年後期から設定される新カリキュラムの施行は22年度からを予定するが、既に授業時間変更や時間割変更などは先行導入され、これによつて従来の倍近い補習・補講期間の確保が、学修者により一層寄与した教育活動が始まっている。また、主体的な学修を可能とする「目標到達点」や「基準到達点」も明示して、成績評価の信頼性確保にも努めている。このように、従来にも増した学修者ファーストの教育活動が、教学マネジメントの推進によつて展開され始めた。



よこやま・しんいち 学長補佐(大学院改革担当)、教学マネジメント室長、博士(工学)専門分野は歴史的建造物の調査研究と復原考察。「旧成田領に残る歴史遺産」(埼玉新聞)を出版。